

中央病院のトピックス

中央病院

～ 目次 ～	
1 改革プラン（第Ⅰ期）の遂行・・・ P.1 2 人材の確保・育成・・・・・・・・ P.2 3 高度・特殊医療の充実 (1) 救急医療機能の向上・・・・ P.3 (2) がん診療機能の充実・・・・ P.3 (3) 周産期母子医療の充実・・・・ P.3 (4) 地域連携の推進・・・・ P.3 (5) 医療安全の推進・・・・ P.4	4 患者サービスの向上 (1) ソフト面の充実・・・・ P.4 (2) ハード面の充実・・・・ P.5 (3) 接遇の向上・・・・ P.5 5 経営改善の推進 (1) 収益の確保・・・・ P.5 (2) 費用の削減・・・・ P.6 6 東日本大震災への対応・・・・ P.6

1 改革プラン（第Ⅰ期）の遂行

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等																				
○耐震補強工事による休床を踏まえ、在院日数の短縮に取り組むとともに、新入院患者の確保に取り組んだ。	改革プランを着実に実施し、経営指標を達成することができた。	・第Ⅱ期改革プランの確実な遂行。																				
	[改革プランの進捗状況（平成22年度）]																					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">指標の項目</th> <th style="width: 15%;">プラン指標a</th> <th style="width: 15%;">実績b</th> <th style="width: 15%;">差引b-a</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>102.6%</td> <td>106.5%</td> <td>3.9%</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>95.7%</td> <td>98.9%</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>病床利用率（一般）</td> <td>85.9%</td> <td>86.4%</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>15.0日</td> <td>14.0日</td> <td>1.0日短縮</td> </tr> </tbody> </table>			指標の項目	プラン指標a	実績b	差引b-a	経常収支比率	102.6%	106.5%	3.9%	医業収支比率	95.7%	98.9%	3.2%	病床利用率（一般）	85.9%	86.4%	0.5%	平均在院日数	15.0日	14.0日
指標の項目	プラン指標a	実績b	差引b-a																			
経常収支比率	102.6%	106.5%	3.9%																			
医業収支比率	95.7%	98.9%	3.2%																			
病床利用率（一般）	85.9%	86.4%	0.5%																			
平均在院日数	15.0日	14.0日	1.0日短縮																			
・新入院患者数 H21：8,536人 → H22：8,794人 258人増																						

2 人材の確保・育成

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等																											
<p>○専攻医の定着を図るため、引き続き専攻医を正職員として採用した。</p> <p>○臨床研修医の確保に努めた。</p>	<p>・専攻医の確保 7人(H22.4) → 8人(H23.4)</p> <p>・臨床研修医の確保 1年次 … 10人(H22.4) → 11人(H23.4) 2年次 … 6人(H22.4) → 9人(H23.4) 〔うち公募研修医〕 1年次 … 9人(H22.4) → 8人(H23.4) 2年次 … 5人(H22.4) → 8人(H23.4) 〔うち自治医大研修医〕 1年次 … 1人(H22.4) → 3人(H23.4) 2年次 … 1人(H22.4) → 1人(H23.4)</p>	<p>・医師（専攻医・研修医を含む）及び看護師等の人材を確保することが必要。（特に救急専門医の確保）</p>																											
<p>○看護の専門性を高めるため、認定看護師の養成研修に派遣した。</p>	<p>・認定看護師の取得状況</p> <table border="1" data-bbox="678 660 1157 952"> <thead> <tr> <th>認定分野</th> <th>取得</th> <th>配置先等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急看護</td> <td>H18.7</td> <td>救急外来</td> </tr> <tr> <td>感染管理</td> <td>H18.7</td> <td>腫瘍・感染科棟</td> </tr> <tr> <td>不妊症看護</td> <td>H19.7</td> <td>産婦人科病棟</td> </tr> <tr> <td>皮膚排泄ケア</td> <td>H20.7</td> <td>形成外科外来</td> </tr> <tr> <td>集中ケア</td> <td>H22.7</td> <td>3西病棟</td> </tr> <tr> <td>新生児集中ケア</td> <td>H22.7</td> <td>N I C U</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア</td> <td>H23.7</td> <td>5西病棟</td> </tr> <tr> <td>がん化学療法</td> <td>H23.7</td> <td>中央処置室</td> </tr> </tbody> </table>	認定分野	取得	配置先等	救急看護	H18.7	救急外来	感染管理	H18.7	腫瘍・感染科棟	不妊症看護	H19.7	産婦人科病棟	皮膚排泄ケア	H20.7	形成外科外来	集中ケア	H22.7	3西病棟	新生児集中ケア	H22.7	N I C U	緩和ケア	H23.7	5西病棟	がん化学療法	H23.7	中央処置室	
認定分野	取得	配置先等																											
救急看護	H18.7	救急外来																											
感染管理	H18.7	腫瘍・感染科棟																											
不妊症看護	H19.7	産婦人科病棟																											
皮膚排泄ケア	H20.7	形成外科外来																											
集中ケア	H22.7	3西病棟																											
新生児集中ケア	H22.7	N I C U																											
緩和ケア	H23.7	5西病棟																											
がん化学療法	H23.7	中央処置室																											
<p>○女性職員の勤務環境の改善を図るため、次のとおり取り組んだ。</p> <p>・院内保育施設の必要性について、院内アンケートを実施した。</p> <p>・女性医師仮泊室を改修した。</p>	<p>院内保育施設の設置希望が多数あった。</p> <p>・病児・病後児保育室の利用者数 H21：延べ94人 → H22：延べ169人</p> <p>エアコン、シャワー付洗面化粧台、仕切カーテン等を設置し、当直に従事する女性医師の勤務環境改善を行った。</p>	<p>・院内保育施設の設置について現在準備中。</p>																											
<p>○JICA草の根技術協力事業の一環として、産婦人科医師をモンゴルへ派遣した。また、モンゴルから2名の研修員（産婦人科医師）を受け入れた。</p>	<p>〔産婦人科医師の派遣〕</p> <p>・派遣期間：H22.6.30～H22.7.12</p> <p>・活動内容：現地の医療水準の把握や妊娠高血圧症候群の診断・治療の講義等</p> <p>〔研修生の受入〕</p> <p>・受入期間：H22.9.6～H22.10.4</p> <p>・活動内容：妊娠高血圧症候群の病態・診断・治療に係る基礎的知識の習得や、胎児超音波診断の基礎的技術の習得等</p>	<p>・平成23年度においても、同様に医師派遣及び研修員受入を行う予定（平成24年度までの事業）。</p>																											

3 高度・特殊医療の充実

(1) 救急医療機能の向上

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等
○救命救急センターの機能向上に取り組んだ。	集中治療室（ICU）内を効率的な配置に改修するとともに、患者の生体情報を集中管理するための機器を整備し、救命救急センターの機能向上を行った。	・救命専門医を確保することが必要（再掲）。 ・休日・夜間の初期救急診療所の役割分担をさらに明確にし、救急医療機能を十分に発揮することが必要。
○平成22年4月のドクターヘリ※運航開始に伴い、これの受入を行った。 ※救急医療に必要な医療機器を備え救急医と看護師を乗せ、救急患者のもとへ緊急出動する専用ヘリコプター。3府県（兵庫県、京都府、鳥取県）が連携し運航。	・H22搬送件数 全体：847件 うち中央病院：61件	・救命救急センターのさらなる機能向上（機器購入・施設整備）について現在準備中。

(2) がん診療機能の充実

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等
○厚生労働大臣から「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けた（H22.4.1/指定済の更新）	<ul style="list-style-type: none"> ・がん相談件数 H21:3,424件 → H22:3,821件 ・緩和ケア外来(週1回)診察患者数 H21:延べ86名 → H22:118名 ・がん医療従事者研修会を開催し、がん緩和ケア等における地域医療レベルの向上に寄与した。 <ul style="list-style-type: none"> ・4回開催：136人参加（うち外部参加者33人） ・東部地域がん医療フォーラムを鳥取市立病院と共催で開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・H23.2.26開催：院内から261人参加 外部の参加者も多数 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療連携拠点病院として他の医療機関との連携強化を図ることが必要。 ・現在、5大がんに係る地域連携パスの運用について検討中。 ・がん医療従事者研修会、がん医療フォーラムとも平成23年度も実施予定。
○患者サロンの開催を始めた(H22.6～)。また、この専用スペースを整備した(H23.1)。	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みを持つ患者や家族同士に対し、情報交換を行ったり医療情報を入手できる「患者サロン」の開催を始めた。 ・H22サロン開催回数：10回（月1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者や家族が利用できる図書室を平成23年6月にオープン。

(3) 周産期母子医療の充実

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等																
○周産期母子医療の充実に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩数（妊娠22週以降） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>差引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩数</td> <td>440</td> <td>457</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>うち多胎</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>△4</td> </tr> <tr> <td>うち帝王切開</td> <td>144</td> <td>148</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H21	H22	差引	分娩数	440	457	17	うち多胎	24	20	△4	うち帝王切開	144	148	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域周産期母子医療センターの機能向上（機器購入・施設整備）について現在準備中。
区分	H21	H22	差引															
分娩数	440	457	17															
うち多胎	24	20	△4															
うち帝王切開	144	148	4															

(4) 地域連携の推進

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等												
○持続可能な医療体制構築のための連携と機能分担を図るため、紹介・逆紹介率の向上を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率等の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>差引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>58.8%</td> <td>57.8%</td> <td>△1.0ポイント</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>102.9%</td> <td>105.2%</td> <td>2.3ポイント</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H21	H22	差引	紹介率	58.8%	57.8%	△1.0ポイント	逆紹介率	102.9%	105.2%	2.3ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・各医療機関の機能分化を推進することが必要。
区分	H21	H22	差引											
紹介率	58.8%	57.8%	△1.0ポイント											
逆紹介率	102.9%	105.2%	2.3ポイント											

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等																
○脳卒中地域連携パス、大腿骨頸部骨折地域連携パスを継続運用した。	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携パスの運用状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>差引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>69件</td> <td>89件</td> <td>20件</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>22件</td> <td>26件</td> <td>4件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H21	H22	差引	脳卒中	69件	89件	20件	大腿骨頸部骨折	22件	26件	4件	<ul style="list-style-type: none"> 現在、5大がんに係る地域連携パスの運用について検討中。(再掲) 				
区分	H21	H22	差引															
脳卒中	69件	89件	20件															
大腿骨頸部骨折	22件	26件	4件															
	<ul style="list-style-type: none"> 医療相談件数が増加した。 H21:1,539件 → H22:1,769件 福祉相談件数が増加した。 H21:6,806件 → H22:6,808件 開放病床の利用状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>差引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>14人</td> <td>5人</td> <td>△9人</td> </tr> <tr> <td>(延べ患者数)</td> <td>203人</td> <td>97人</td> <td>△106人</td> </tr> <tr> <td>利用医師数</td> <td>10人</td> <td>3人</td> <td>△7人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> クリティカルパス作成(登録)数(再掲) H22.5.24現在:336件 → H23.5.18現在:420件 84件増 	区分	H21	H22	差引	患者数	14人	5人	△9人	(延べ患者数)	203人	97人	△106人	利用医師数	10人	3人	△7人	
区分	H21	H22	差引															
患者数	14人	5人	△9人															
(延べ患者数)	203人	97人	△106人															
利用医師数	10人	3人	△7人															

(5) 医療安全の推進

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等																				
○夜勤時における看護師の負担を軽減し、医療事故を未然に防ぐため、3人夜勤看護体制を維持した。	<ul style="list-style-type: none"> インシデント・アクシデントレベル数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>差引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒヤリ・ハット</td> <td>174</td> <td>204</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>レベル1~2</td> <td>1,180</td> <td>1,544</td> <td>364</td> </tr> <tr> <td>レベル3~5</td> <td>45</td> <td>41</td> <td>△4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,399</td> <td>1,789</td> <td>390</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H21	H22	差引	ヒヤリ・ハット	174	204	30	レベル1~2	1,180	1,544	364	レベル3~5	45	41	△4	計	1,399	1,789	390	<ul style="list-style-type: none"> 3人夜勤看護体制の維持、拡充等により、医療安全のさらなる向上を図ることが必要。
区分	H21	H22	差引																			
ヒヤリ・ハット	174	204	30																			
レベル1~2	1,180	1,544	364																			
レベル3~5	45	41	△4																			
計	1,399	1,789	390																			
○クリティカルパスの作成拡大等によるチーム医療の推進を図った。	<ul style="list-style-type: none"> クリティカルパス作成(登録)数(再掲) H22.5.24現在:336件 → H23.5.18現在:420件 84件増 																					

4 患者サービスの向上

(1) ソフト面の充実

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等
○病院機能評価Ver.6の認定を取得した。	<p>病院運営について、客観的な視点からの評価を受けることができた。 なお、これにより、評価できる点やさらなる改善が必要な点等を確認することができた。 また、受審に先立ち、マニュアルの点検や日頃の業務の見直しなどを行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> モンスター・ペイシエントやクレマーへの対応策を整えることが必要。
○患者等の健康を守るため、敷地内禁煙についてアンケート調査を行うなど、実施の検討を行った。	<p>平成23年度から、敷地内禁煙を開始した。</p>	
○医療メディエーターを養成するため、職員(看護師)を研修に派遣した。	<ul style="list-style-type: none"> 研修内容:医療メディエーター基礎編 派遣時期:H22.8 派遣人数:1名 	<ul style="list-style-type: none"> 医療メディエーターの技術を有する職員のさらなる養成が必要。
○外来に無音テレビ10台を設置した。	<p>患者が、外来待ち時間中に病院が発信するさまざまな情報や健康に関する情報等を閲覧することが可能となった。</p>	

(2) ハード面の充実

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等
<p>○耐震性の向上を図るため、耐震補強工事を実施した。</p> <p>【工期】H23年5月31日まで</p> <p>【所要経費（附帯事務費を含む）】</p> <p>〔基本計画策定～実施設計（H19-H21）〕</p> <p>93,836千円（財源）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国補 42,488千円 繰入 39,175千円 自己 12,173千円 <p>〔工事（H22-H23）〕</p> <p>1,240,664千円（財源）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国補584,157千円 起債656,500千円 自己 7千円 	<p>耐震性向上により、患者が安心して医療を受けられるとともに、医療を提供する側も安心して医療に専念することができる。</p>	<p>・建物の狭隘・老朽化への対応として、中～長期的な視点で建て替えを検討することが必要。</p>
<p>○病室の改修を行った。</p>	<p>・老朽化等への対応として、一部の病室入口のドアや内装等を改修し、療養環境を改善した。</p>	

(3) 接遇の向上

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等
<p>○新たに「接遇リーダー研修」を実施した。</p>	<p>看護師、コメディカル、委託業者職員を対象に、安心感のある病院施設としての接遇の基礎を習得した。</p> <p>・28名参加</p>	<p>・平成23年度も接遇研修を実施する予定（対象者等を検討中）。</p>
<p>○こころのコミュニケーション講座を開催し、職員の意識啓発を図った。</p>	<p>・講師：鳥大医学部総合医療教育センター 准教授 高塚人志</p> <p>・連続5回開催、25名参加</p>	
<p>○新規採用看護師宿泊研修を実施した。</p>	<p>・講師：院内の医師・看護師</p> <p>・52名参加（看護師42名、研修医10名）</p>	<p>・平成23年度実施済。</p>

5 経営改善の推進

(1) 収益の確保

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等
<p>○7対1入院基本料の施設基準を獲得した（H22.6～）。</p>	<p>看護師を増員し、より手厚い看護を提供できる体制を整備した。</p> <p>7対1入院基本料の施設基準を獲得したことにより約2.6億円の増収となった。</p>	<p>・産休・育休者をカバーしながら7対1看護体制を維持するため、看護師の確保が必要。</p>
<p>○未収金対策として、次のとおり取り組んだ。</p> <p>・当院や銀行の窓口での支払いが困難な県外在住患者等の支払いを促進するため、「コンビニエンスストア収納」の導入を検討した。</p> <p>・新たな未収金発生の抑制に努めた。</p>	<p>平成23年度中に「コンビニエンスストア収納」を開始できるよう、現在、手続きを進めているところ。</p> <p>・限度額適用認定証制度利用件数 H21:3,079件 → H22:3,213件 134件増</p> <p>・出産育児一時金制度利用件数 H21:272件 → H22:479件 207件増</p>	<p>・未収金自体は引き続き増加していることから、未収金発生防止の徹底と回収の強化を図ることが必要。</p>

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等												
<p>・弁護士法人への債権回収 業務委託を継続実施した。</p> <p>・悪質な滞納者に対する支払督促の実施に向け、病院局と連携して手続きを行っている（継続中）。</p>	<p>・弁護士委託による回収実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>委託債権</th> <th>回収実績累計 (H23.4まで)</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>2,265人</td> <td>763人</td> <td>33.7%</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>97百万円</td> <td>15.7百万円</td> <td>16.1%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	委託債権	回収実績累計 (H23.4まで)	回収率	人数	2,265人	763人	33.7%	金額	97百万円	15.7百万円	16.1%	
区分	委託債権	回収実績累計 (H23.4まで)	回収率											
人数	2,265人	763人	33.7%											
金額	97百万円	15.7百万円	16.1%											

(2) 費用の削減

平成22年度における主な取組状況	成果・実績	今後の取組・課題等																				
<p>○材料費の削減に努めた。</p>	<p>・H21年10月に導入した新SPD方式により、薬品や診療材料の調達を行っている。これにより、搬送業務・棚卸業務・発注業務・手術準備業務の効率化・省力化や、購入経費の節減につながった。</p> <p>・想定節減効果 薬品費 約60百万円節減 診療材料費 約28百万円節減</p> <p>・後発医薬品採用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">採用率</th> </tr> <tr> <th>品目数ベース</th> <th>購入額ベース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19.3.31</td> <td>5.1%</td> <td>4.1%</td> </tr> <tr> <td>H20.3.31</td> <td>7.2%</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>H21.3.31</td> <td>10.1%</td> <td>11.9%</td> </tr> <tr> <td>H22.3.31</td> <td>11.7%</td> <td>13.4%</td> </tr> <tr> <td>H23.3.31</td> <td>12.7%</td> <td>12.5%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	採用率		品目数ベース	購入額ベース	H19.3.31	5.1%	4.1%	H20.3.31	7.2%	4.4%	H21.3.31	10.1%	11.9%	H22.3.31	11.7%	13.4%	H23.3.31	12.7%	12.5%	<p>・同様の機能を有する複数の診療材料の統一化を図るなどにより、さらなる診療材料費の削減が必要。</p> <p>・高額薬品を後発品にするなどにより、さらなる薬品費の削減が必要。</p>
区分	採用率																					
	品目数ベース	購入額ベース																				
H19.3.31	5.1%	4.1%																				
H20.3.31	7.2%	4.4%																				
H21.3.31	10.1%	11.9%																				
H22.3.31	11.7%	13.4%																				
H23.3.31	12.7%	12.5%																				

6 東日本大震災への対応

派遣チーム	派遣状況
○DMATの派遣	<p>派遣先：宮城県仙台市方面</p> <p>期間：平成23年3月11日～平成23年3月14日</p> <p>隊数：1隊</p> <p>人数：11名（医師2名・看護師4名・調整員3名・運転士2名）</p>
○医療救護班の派遣	<p>派遣先：宮城県女川町方面</p> <p>期間：平成23年3月…21日～23日、28日～30日 平成23年4月…3日～5日、7日～9日、13日～15日、17日～19日、23日～25日、27日～29日 平成23年5月…5日～7日、11日～13日、19日～21日</p> <p>班数：計11班</p> <p>人数：1班あたり4名（医師・看護師・医療技術職員等で構成）</p>